

磐田NPO交流センター通信

まちづくりサポーターって

まちづくりサポーター始動

まちづくりサポーターは、「まちづくりやボランティアの活動をしてみたい」、「自分の持つ知識や技能を地域に活かしてみたい」という「したい人」と「してもらいたい人」を事務局（磐田市企画調整課）が「橋渡し」をすることにより、まちづくりやボランティア活動をより盛んにしていこうという制度です。現在六十八名の方がまちづくりサポーターとして登録されています。サポーターのみなさんは、磐田NPO交流センターの仲間として、センターを利用することができます。今年で二年目となるNPO交流センター通信は、取材・編集を手伝ってくれるサポーターの方と、様々なまちづくり団体の活動やそこを支援するサポーターの方々の活躍を紹介してまいります。



「ロープを張る」。

そんなサポーター制度の「したい人」と「してもらいたい人」が六月一日、見付の「いわた大祭り」で見事マッチング。「いわた大祭り」にはサポーター十一名の方が十一時に集合し、早速お弁当配りから仕事開始。当日の予定は、十五時頃までですが、時間の許す方は夜まで、ということでした。サポーターの皆さんは、まちをよくしたい（六十代男性）、私にできることがあれば（四十代女性）、地域の人のつながりが少なくなってきたと思うので、よりよい街づくりの勉強のため（四十代女性）、W杯・国体開催について



「ロープを張る」。



「ロープを張る」。

まちを美しくする手伝いがしたい（六十代男性）、まちづくりのお手伝いをしたい（六十代男性）、という意気込みを持つての、サポーター登録後初めての依頼、イベント参加でした。「大名会見の場」と「着鯨の式」での警備を任せられ、時間になると、適当な所にバリケードを置き、ロープを張り、通行人、見学者の安全を図っていました。いわた大祭り事務局長の青島さんからは、「サポーターの方達は大変意識の高い方達の集まりで事前説明会から積極的に参加して頂き、とても助かりました。もっと大勢のサポーターの方にもご協力を仰ぎたかった。今後も大名列と



（この記事は、まちづくりサポーター一〇四六齋藤 直美が取材しました。）

してこの行事を続けていきたい。」とのお声を頂きました。サポーターの皆さん今日は本当にお疲れ様でした。しかし、サポーターの皆さんからは、今後はイベントだけでなく、いろいろなところへ参加したい（六十代男性）、ふじっぴーになりたい（四十代女性）、もっともっと私たちを利用してもらいたい（六十代男性）、利用する側にももっと知ってもらいたい（六十代男性）、もっと情報を知りたい（六十代男性）、環境美化に参画したい（六十代男性）等々、活躍の場を求める声が続々ときかれました。その高い意識と、制度を活きた場にしたという意気込みがひしひしと伝わってきました。この制度が、掛け声だけで終わることなく、まちの人の間に浸透し、一人一人が楽しく活躍する制度となることを願います。そのためには「したい人」と「してもらいたい人」の交流の場、情報交換、情報発信の場の必要性をより一層感じました。

磐田久保川にて あお空衆の活動実践記

新幹線と二之宮保育園の間に磐田久保川が通っています。この川は今も底からきれいな水が湧き出ています。スーパードオカノ北側の岡田往環の橋から東、磐田福田線の水神橋から西の間のこの地区にゴミの収集を行っている団体があります。「自分達の住んでいる地域の川から下流へゴミを流さない、河川本来の姿と力を取戻そう。」と青空の下、毎月定期的に大量のゴミ拾いを行っているのが、「あお空衆」です。

五月十九日の日曜日には、世話役さんを含め自らの意思で参加したメンバーの手により、ゴミの収集が行われました。土手や道沿いのゴミは簡単に拾えるものの、川の中は手漕ぎのボートと胸まで丈のある長靴（ウエーダー）を履き、流れている物や沈んでいる物なども収集をします。山の様に積まれたゴミは廃棄物と呼んだ方がふさわしく、空き缶やペットボトルの



陸揚げ作業中

他にこの二年間で自転車やバイクが八十台、電化製品なども

まちづくりの現場から

理美容のボランティア活動を続けています。

収集されてきました。生活の便利さの裏側や、人々のマナーの悪さなどを感じました。少しきれいになった川や土手を振り返り、亀の姿がちらほらと見え始めると、とても気分がよく、ゴミを拾っているうちにいつしか熱中し、楽しくも感じられます。しかし、ゴミを捨てるといふ人間の行為は、生活行っている量も減ってもなくする事はありません。「拾う側の人が増えれば、少しずつ下流へ流れてしまうゴミが減る。」「川の失った潜在能力を取り戻し、湧き水を目に見えるものになりたい。」と世話役さん達は語ってくれました。

追記 NPO交流センターでの交流であお空衆の活動に参加・取材させて頂き、この活動で新しい視野が広がりました。しかし現状では、どこでどんな団体がどんな活動をしているかなど、知らない、わからないという市民の方が多いのではないかと思います。誰にでも参加できる交流の場として、今後一人でも多くの方が利用してくれたら...と思います。そして、あお空衆の仲間が増え、磐田久保川に限らず太田川水系全体、各河川に思いを同じとする仲間が増えていくよう頑張りを続けてもらいたいです。

今後のあお空衆の活動予定等は、NPO交流センターの掲示板にも告知してあります。問い合わせは交流センターまで。



本日の収穫（大漁?）

（この記事は、まちづくりサポーター一〇二四 堀内 江里香が取材しました。）

NPO法人磐田ふれあい基金協会 理美容師のボランティア グループ活躍中

NPO法人磐田ふれあい基金協会（飯田 好治理事長）の理美容師のふれあい理美容クラブ訪問サービス十名の活動を報告します。NPO法人を設立して以来、寝たきり高齢者、障害者に対し日頃の仕事をしながら定休日を使って

今回は「おおふじ学園（知的障害者通所更生施設…一九八一年開設）へ毎月第二日曜日に訪問理美容サービスをしているメンバーと現地を取材。

落合宣正学園長から学園での生徒さんたちの生活実態、活動の様子をお伺いしました。

毎月一回、第二日曜日が待ちどおしいようになってきたそうです。最初の頃は怖がったり、直ぐ席を立つたりして中々戻って来なかったりで、先生方はご苦労されたようです。しかし、今では理美容師さんとはすっかり打ち解けて鏡を片手に気持ちよさそうに自分の顔に魅入っていました。



「もう少しカットしましょうか?」

理美容師グループの技術指導をしているリーダーの高山さんは「生徒さんと接して色々なことを教えられ、とても勉強になります。若い人達も入会されてとてもうれ



この日のメンバー

しいです。これからも続けて行く事ともっともつと市内の理美容師の会員が増えるといいですね。」と熱く語ってくれました。

また、生徒さんの保護者と学園との連絡ノートを見ました。「髪をきれいにして頂き本当に有難うございます。洗髪や入浴のとき本当に助かります。」「髪の毛揃えて頂きいつもきれいでいられて幸せです。」等と感謝、感謝の文面が一杯でした。

短時間に髪をカット、剃刀できれいに整えて行く手際の良さは美に見事なものです。日頃の技術向上への挑戦があればこそと思います。このボランティアグループの輪が更に広がることを期待したいものです。

（この記事は、まちづくりサポーター一〇〇二 伊藤 勝 一〇六七 堀部 裕子が取材しました。）
これらの団体へのお問い合わせは交流センターまで。



日本宇宙少年団 中遠分団 コスモジュビリアンス

代表 新員 文也（しんがいがいぶんや）
事務局 磐田市役所 企画調整課
TEL（三七） 四八〇五

設立 平成十一年五月
構成 リーダー 八名、
団員 二十七名
（男子二十三名・女子四名）

活動目的
小学生・中学生たちに実験や体験、視察などをおして、宇宙や科学技術に興味をもち未来への夢を育んでもらうこと

活動内容
月一回の活動を行っています。科学実験教室、研修視察旅行、水口ケット製作などの工作関係の事業です。親子で参加できる内容が多いので、興味ある保護者の方が多く参加します。



今までの主な活動

向井千秋宇宙飛行士講演会開催、春野町「山の村」星空観察会、つくば宇宙センター視察、リニアモーターカー走行実験見学、水口ケット大会開催（ジュビロ協賛）、NHK「千人の力コンテスト」企画参加

会費 本部 入会金 二千元
本部登録年会費 二千四百円
分団 年会費 二千元

参加資格

原則として小学生・中学生（幼稚園児もいます。）

備考
本部は財団法人日本宇宙少年団（東京）です。団長は日本科学未来館館長の毛利衛、副団長は若田光一・土井隆雄、理事長は松本零士（漫画家）です。今後は、種子島宇宙センターにロケットの打ち上げを見に行きたいと考えています。

英語交流協会[E.C.S.]

代表 門奈 恵理子（もんなえりこ）
事務局 佐藤 貞臣
磐田市明ヶ島一―二―一―一
TEL（三五） 七三三六

設立 平成十三年十月
構成 十名（男五名・女五名）
外国人含む

活動目的・活動内容
私たちは英語を通じて情報交換をしていく中で、文化や習慣の違いに触れたり、異業種間での交流を図ったりしながら、仲間作りをし、磐田市の市民活動をより活性化することに協力していきたいと思っています。最近では、W杯の通訳ボランティアに参加しました。

参加・協力方法
活動をともにする気持ちや意欲



NPO法人 家庭中医薬普及センター

代表 慶徳千代子（けいとくちよこ）
事務局 浜松市城北
三丁目三番四十七号
TEL〇五三（四七五）五八六八

設立 平成十二年一月
構成 五十名
（男九名・女四十一名）

活動目的
家庭に実用できる中医薬（東洋医学）の知識を指導及び普及させる目的で設立しました。

活動内容
会報誌の発行や健康講座・講演会・講習会（基礎コースなど六コース）などを開催しています。そして、中医薬における健康管理の情報交換・指導・人材育成も行っています。また、会員には無料コンサルティング（月一回）をしています。

参加・協力方法
健康に関心のある方なら、どんなでも大歓迎致します。主旨に賛同し、参加ご希望の方はご連絡ください。

会費等 年会費 三千元

磐田市青年団連絡協議会

代表 川手 進（かわてすすむ）
事務局 磐田市匂坂中九六〇
TEL（三八） 一〇七〇

構成 二十一名
（男十二名・女九名）

活動目的・活動内容
今やすっかり磐田の冬の風物詩となった「ファミリーフェスティバル」…。年に一度、今之浦公園に百トンの雪山が現れるのを、皆さんもよく知っていますね。子どもたちの笑顔やお父さんお母さんの楽しそうな姿を見たくて、今年も一生懸命企画します。それだけではありません。夏に各地区の盆踊り、秋は文化祭、冬にはサンタの??などなど、「楽しく」やりがいのある活動を通して、お互いの親睦を深めながら、地域や子どもたちの笑顔に出会うために頑張っています。私たちは、そんな「若い衆」です。

参加・協力方法
（十八才から三十才の方）いつでも気軽にどうぞ。まちづくりサポート制度からでも参加できます。



募集・会費等

団員募集しています。
（年会費、三千元）
ファミリーフェスティバル実行委員も募っています。（会費はいりません。）

学校給食を考える磐田の会

代表 千葉 みつ子（ちばみつこ）
事務局 磐田市見付一三一―二―三
TEL三二―一五〇四
（夜、浅井方）

設立 平成十二年九月七日
構成 二十五名
（女十八名・男七名）

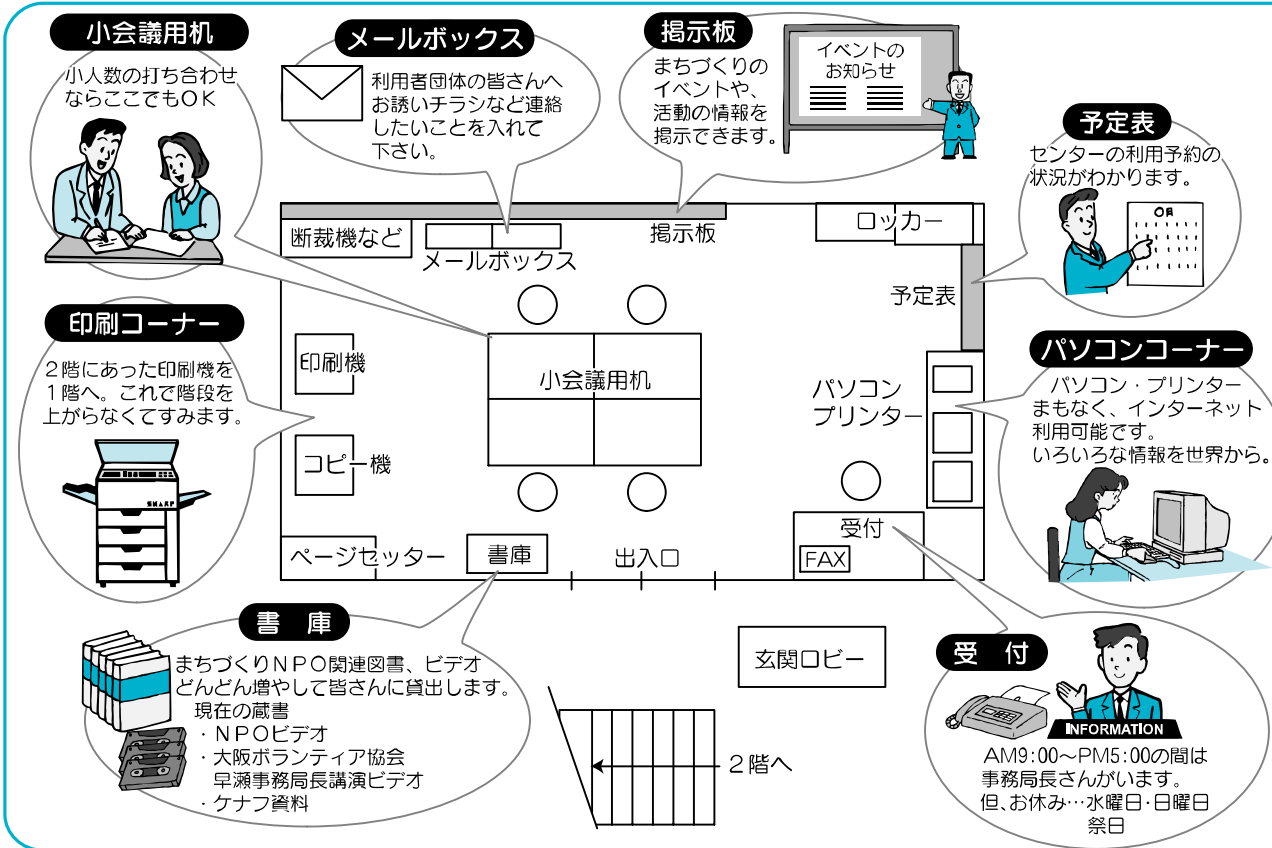
活動目的・活動内容
安全で、豊かな学校給食を考え、行動していくことを目的として活動します。（会則より）二〇〇一年は、自校方式を守る請願署名を八千位集め、市議会に提出しました。今後も引き続きこの活動に取り組むと同時に、学校給食のもつさまざまな問題を取り上げていきたいと思っています。

参加・協力方法
案内パンフレットが事務局にあります。必要な方はご連絡ください。お送りします。その上で賛同できる方は、ご入会ください。磐田市内の全小中学校に会員がいて交流できれば、より活動の幅が広がると思います。多くの方の入会をお待ちしています。入会をするのはちよつとまだ決められないけれど関心があるという方は、学習会・講演会・給食施設訪問など行司の案内をいたしますので、連絡先をお知らせください。

会費等 年 五百円（一口）

交流センター 一階事務室を開放、 多目的空間に模様がえ

一階事務室を今年五月より利用者に開放、二階は従来通り、会議、研修にご利用下さい。



INFORMATION

交流フォーラム2002開催決定!

「まちづくりサポーターとともに」
主催 警田NPO活動推進協議会・警田市
日時 十月二十日(日)
十三時三十分から十六時
開催場所 警田NPO交流センター
二階

内容 今年度から動き始めたまちづくりサポーターに登録されたみなさんの顔合わせと市民活動団体のみなさんとの交流会・これからのまちづくりについてみなさんと熱く語り合います。サポーターのみなさん市民活動団体のみなさんふるって参加ください。

連絡先 警田NPO交流センター
事務局まで三六一一八九〇
(FAX共)

第二十三回ふれあい広場

「楽しさ120%」
主催 警田市社会福祉協議会・警田市ボランティア活動推進連絡協議会
日時 九月二十九日(日)
十時から十五時(小雨決行)
開催場所 今之浦市有地

内容 子どもからお年寄まで、障害をもつ人も特にもたない人もみんなが、楽しくふれあい、理解しあうことを目的とした催し
ステージコーナー、福祉体験コーナー、展示・販売コーナー、飲食店、飲食コーナー、バザーコーナー
問合せ先 社会福祉協議会
三七一四八二四 堀内まで

秋の手づくりおやつの日

主催 学校給食を考える警田の会
日時 九月二十一日(日)
九時三十分からお昼まで
開催場所 お問い合わせください
内容 十五夜にちなんで、お月見だんごとおはぎづくり
参加費 実費
問合せ先 三二一五〇四(夕方)
千葉

チャレンジランキング大会

(県子ども会連合会西部地区予選)
主催 警田市子ども会世話人連合会
日時 九月二十二日(日)
十時から十五時
(受付九時三十分から)
開催場所 警田市総合体育館
内容 紙ぎりのぼし、豆つまみ皿うつつ、ぞうきんかけ二十m走、六角鉛筆積み、洗面器お手玉投げ、ピンポン玉遠投、フリフリ三十秒、「の」の字さがし、しりとり、割り箸ダーツ *種日の変更の場合あり
参加費 無料 定員はありませんが、当日受付へ申し込みください。
持ち物 体育館シューズ、昼食
問合せ先 生涯学習課
三五一四三二五 近藤まで

警田NPO活動推進協議会からお知らせ

今年度の交流センター通信は、まちづくりサポーターのみなさんと紙面を作っています。お手伝いくださる方、もっとこうしたらというご意見がある方、ご連絡をお待ちしています。編集委員の方には、些少ながらお礼を出したいと考えています。
連絡先 警田NPO交流センター
事務局まで三六一一八九〇
(FAX共)

編集後記



昨年より発行を開始した交流センター通信も、今回で第四号となりました。正直、こなののが精一杯の一年でした。今年、新たにまちづくりサポーターの中から編集委員に五名参加頂くことになり、いろいろな角度から意見を交わし、取材も活発にできると思っています。市民参加のまちづくりなんて堅苦しくいわれますが、ちよつとしたことから仲間が増え、また隠れている人・眠っている人の力ある存在を感じます。何か楽しくなる予感がしています。
(村上)

- 警田NPO交流センター通信 第四号 平成十四年八月一日発行
- 発行者/警田市総務部地域振興課 千四三八一八六五〇
- 警田市国府台三一 TEL(〇五三八) 三七一四八一
- 編集/警田NPO活動推進協議会 千四三八一〇〇七八
- 警田市中心一丁目 TEL(〇五三八) 三六一一八九〇